

平成13年度杉並区公社等経営評価表

団体概要	名称	(社)杉並区シルバー人材センター		代表者	会長 大澤 清 躬	所管部課	高齢者施策課	
	基本財産	33,685千円 (正味財産)		設立年月日	昭和54年3月10日		電話 3317-2217	
	設立目的	顧客(サービス対象)			事業内容			
団体概要	一般雇用にはなじまないが働く意欲を持っている健康な高齢者のために、地域社会と連携を保ながら、その知識、経験及び希望に沿った就業機会を確保し、生活感の充実及び福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を生かした活力のある地域社会づくりに寄与することを目的とする。			第1顧客	高齢者	臨時的かつ短期的な就業又はその他の簡易な業務に係る就業を希望する高齢者に対して、その希望と能力に応じた就業機会の提供 高齢者に対する簡易な仕事に関する知識、技能の付与を目的とした講習等の実施 高齢者の就業に関する調査研究、情報の収集及び提供、相談の実施		
				第2顧客	発注者			
経営分析(定性評価)	団体による自己評価結果					定性評価レーダーチャート 		
		対象設問数	「はい」の回答数	比率%	評価			
	計画性	4	3	75.0	B			
	目的適合性	4	3	75.0	B			
	健全性	9	7	77.8	B			
	効率性	5	5	100.0	A			
経済性	5	5	100.0	A				
総合	27	23	85.2	A				
経営分析(定量評価)	財務	主要指標	単位	平成10年度	平成11年度	平成12年度	特記事項 職員一人当たり事業収入の分母の職員数は正規、嘱託、臨時職員の各人数にそれぞれの1時間当たりの平均給料を比較して求めた換算率を乗じて算出。	
		総収入	千円	877,889	913,203	927,155		
		総資産	千円	110,310	114,857	115,820		
		補助金収入依存度	%	11.49	11.07	14.95		
		受益者負担	千円	698,836	725,604	742,781		
		管理費比率	%	22.16	22.16	21.71		
		職員一人当たり事業収入	千円	30,384	31,548	32,294		
		経常支出人件費比率	%	16.90	16.75	16.61		
	管理費対基本財産運用収入	%	該当なし	該当なし	該当なし			
	組織	職員数	人	30	31	32		
常勤役員比率		%	3.33	3.22	3.12			
事業分析	活動指標	活動指標	%	51.3	51.6	53.3		
		活動指標	件	5,636	6,469	7,961		
		活動指標	千円	57,921	59,454	58,544		
	成果指標	成果指標	コース	6	5	7		
		成果指標	%	88.0	84.7	88.2		
	活動指標名 式				成果指標名 式			
月平均就業率 / 各月の就業実人員計 ÷ 各月末会員数計				スキル講習 / 開催コース数				
延受託件数 / 月単位で実績のあった受託件数の累計				受託消化率 / 年間受託件数 ÷ 年間発注件数				
事務費収入 / 配分金 × 事務費率 (おむね8%)								
経営実績	<p>就業機会の公平性を図るため人気があり長期就業者の多い職種(有料自転車駐車場、自転車集積所、通学安全指導、ゆうゆうハウス)を対象に就業期間設定の検討を行い、平成13年度からの施行とした。 平成11年度に落ち込んだ受託消化率を落ち込み前に戻した。 既存職種と新規開発職種の両面に対し講習会を開催した。 過去最高の就業率をあげ就業機会の提供が図れた。 事務費収入が減収し正味財産減少に直結してしまった。</p>							

【公社等団体経営評価（1次評価）】		
経営分析・定性評価	経営分析・定量評価	事業分析
<p>・3カ年計画により事業を実施し最終年度に見直しを行なっているが、今後は、財政要素も視野に入れた計画が必要</p> <p>・上部団体が実施する調査結果を参考としているが、今後は、独自の地域調査の実施が必要</p> <p>・状況変化に伴う役職員の意識改革の必要性とともに会員に対し事業理念の周知徹底</p> <p>・情報公開にあっては、上部団体の準則は制定されているため、区規程との関係を整備中</p>	<p>平成12年度は財政悪化が顕在化し、実質単年度収支は採算割れとなり正味財産も減少した。この主な要因は 収入減少・退職金引当金の過年度一括処理による特別損失計上 授産場（現方南・清水分室）移管効果が現れていないことによる。今後、5年間は事業および経費の調整を要する。</p> <p>改善策として 自主財源の増収と固定経費の削減 方南・清水分室の在り方も含めた事業見直し バランスシートの改善 公益性と収益性のバランスをとりながらの経営が必要と考える。</p>	<p>厳しい状況が今後も続く予想がされる中で、受託コストや事業コストの削減を実施するにあたり、公益性とのバランスをどのように調和していくか。シルバーが総力を挙げて取り組む重要課題</p> <p>・実績主義に重点がおかれ、理念の希薄化や安全就業対応等、常に事業目的への振り返りが必要</p> <p>・二種の顧客ニーズの多様化に対する迅速な対応への努力が必要</p> <p>・東京都域シルバー間での受託調整機能や広域受注の推進、民間企業との共同事業創出が状況打破と考えられる。</p> <p>・平成10年度授産事業受託に伴い生産性が悪化したことが、今年度全面移行されたことで向上を図る。</p>
<p><b>【公社等団体経営評価】</b></p> <p>・NPMの観点から、民間で実施されている経営手法の概念（バランススコアカード等）を導入した事業の組み立てが必要な時代がシルバー事業にも到来していることを実感している。</p> <p>・時代の変遷に対応する役職員の意識改革と、それへの人材教育の必要性</p> <p>・事務局及び会員を含めた、組織全体におけるOAインフラの環境整備とその活用がシルバー発展の鍵</p>		
【所管部課経営評価（2次評価）】		
経営分析・定性評価	経営分析・定量評価	事業分析
<p>健全な組織 管理体制のもと、状況に応じた事業への取り組みにより就業機会を提供し、高齢者の社会参加や生きがいづくりに大きく貢献している。</p> <p>授産場移管がもたらした組織・財政への影響についての点検などを行い、自立性を向上させる。厳しい状況であるが、経営改善についてさらに取り組む必要がある。</p> <p>また、サービス利用者の満足度調査や地域ニーズの把握、情報公開に向けた整備をすることが望まれる。</p>	<p>・12年度は職員退職金引当金の規定の改定について区補助金の対応がなされず、経常収支がマイナスとなった。このことについては補助金の増額による改善を目指すこととする。</p> <p>・事業費比率を上げ、管理費比率を下げるなど経営努力をされているが、今後とも自主財源を増やす方策を検討するなど具体的に取り組む必要がある。</p> <p>授産場移管の影響、事業収入増についての分析を詳細に行い、経営改善に結びつける必要がある。</p>	<p>高齢化の伸展を反映し、会員数は増加している一方、厳しい経済状況から事業の拡大には多くの困難がある。当面の措置としての就業機会の公平性の確保のための分かち合い就業の促進は評価するが、ニーズに応えられるよう地域と連携した受注確保のしくみづくり・魅力あるサービスの提供に向けた努力が必要と考える。</p>
<p><b>【住な経営上の分析、課題、問題点等】</b></p> <p>業務内容や財務内容については適正であると考え、12年度の経常収支がマイナスとなったことについて詳細に分析し、自主財源を増やす方策やコスト削減に向けた取り組みを行う必要がある。</p> <p>長期的には、公益性と採算の考え方、補助金との関係を含めて整理していく必要がある。</p>		
<p><b>【所管部課経営評価】</b></p> <p>NPMの視点を含め、時代の変革に対応する意識改革とそれに適応した人材の養成に対応することが必要と考える。</p> <p>状況の変化や地域ニーズを的確に捉えた事業展開を行い、効率的な運営・事業収入の増に向けた具体的な方策を検討し、早急に取り組む必要がある。</p>		
【総合経営評価（3次評価）】		
<p>独自に経営分析による管理手法を導入し、モデル的事例として紹介されている。順調に会員数が拡大するなど、堅調な実績をあげている。</p> <p>平成12年度経常収支マイナス78万円となったが、これは退職金引当金の過年度一括処理による特別損失計上等によるものである。</p> <p>今後、組織規模に見合ったIT化整備により、サービス向上が望める。また、更なる就業者の拡大や、経験知識の優れた高齢者の付加価値の高い事業開拓などにより、自立的な経営の発展が期待できる。</p>		